



Photostud

THE HOPEFUL STAKES

第42回 ホープフルステークス (GI)

1 着
本 賞 70,000,000円
付加賞 1,162,000円

2 着
28,000,000円
332,000円

3 着
18,000,000円
166,000円

4 着
11,000,000円

5 着
7,000,000円



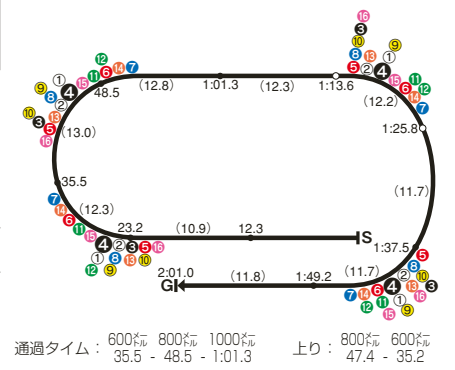
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

牡・牝、2歳、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 馬齢重量

2025.12.27 中山 曇・良 芝2000m (国際) (指定)

順	馬番	馬名	性	齢	斤	騎	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	④	ロブチェン	牡	2	56	松山弘平	2:01.0	6-7-7-7	34.5	512(-4)	19.87	杉山晴紀(栗東)	115
2	①	フォルテアンジェロ	牡	2	56	T.マーカド	3/4	4-5-4-4	34.9	450(+2)	6.44	上原佑紀(美浦)	113
3	②	アスクエジバラ	牡	2	56	岩田康誠	1/2	5-6-6-4	34.9	456(-8)	32.90	福永祐一(栗東)	112
4	②	アーラムアレス	牡	2	56	菱井福星	1	9-9-10-10	34.5	494(+6)	16.00	橋口慎介(栗東)	110
5	⑥	パドリナート	牡	2	56	坂井福星	ハナ	3-3-4-4	35.2	492(+4)	6.45	松永幹夫(栗東)	110
6	⑤	オルフセン	牡	2	56	岩田望来	1 1/2	16-16-12-10	34.5	484(±0)	29.90	斎藤 誠(美浦)	107
7	②	アンドウリル	牡	2	56	川田将雅	ハナ	6-3-2-2	35.5	460(-2)	3.51	中内田充正(栗東)	107
8	③	ジャスティンピスタ	牡	2	56	北村友一	1/2	12-13-12-13	34.6	516(±0)	4.62	吉岡辰弥(栗東)	106
9	⑦	テオオールアイン	牡	2	56	横山武史	3/4	1-1-1-1	36.0	486(-4)	87.80	奥村 豊(栗東)	105
10	①	ノチェセラダ	牡	2	56	A.ブーシャン	アタマ	6-7-7-7	35.3	470(+2)	37.90	杉山佳明(栗東)	105
11	⑧	マテンロウゼロ	牡	2	56	横山典弘	クビ	9-9-12-13	34.9	464(+2)	151.90	松永幹夫(栗東)	104
12	④	ジーネキング	牡	2	56	斎藤 新	1	2-2-2-2	36.1	490(+12)	55.00	斎藤 誠(美浦)	102
13	⑩	ウイナズナイン	牡	2	56	西村淳也	1 1/4	14-13-12-13	35.3	512(+0)	62.00	小栗 実(栗東)	100
14	③	シウナンガルフ	牡	2	56	池添謙一	1/2	12-12-10-10	35.6	492(+20)	5.63	須貝尚介(栗東)	99
15	⑤	ノーウェアマン	牡	2	56	木幡巧也	2 1/2	14-13-12-16	35.7	490(±0)	279.10	浅利英明(美浦)	95
16	⑥	メイショウハチコウ	牡	2	56	三浦皇成	1/2	9-9-7-7	36.4	506(+10)	133.00	牧浦充徳(栗東)	94

単勝④1,980円(7¹/₂) 複勝④660円(8¹/₂) ⑪250円(3¹/₂) ⑤590円(7¹/₂) 枠連②-⑥520円(1¹/₂)
馬連④-⑪8,310円(26¹/₂) ワイド④-⑪2,380円(26¹/₂) ④-⑤6,380円(55¹/₂) ⑪-⑤2,790円(31¹/₂)
馬単④-⑪19,100円(61¹/₂) 3連複④-⑪-⑤65,140円(140¹/₂) 3連単④-⑪-⑤368,180円(851¹/₂)
5重勝⑦③④⑤④7,206,000円(57票) 対象競走：中山9R/阪神10R/中山10R/阪神11R/中山11R



- ### アラカルト
- ・松山弘平騎手はホープフルS初勝利。JRA重賞は25年7勝目、通算55勝目
 - ・杉山晴紀調教師はホープフルS初勝利。JRA重賞は25年5勝目、通算26勝目
 - ・ワールドプレミア産駒はJRA重賞初勝利。新種牡馬産駒による本競走制覇は23年レガレイラ(父スワーヴリチャード)に続く2回目(GIに昇格した17年以降)
 - ・京都競馬場デビュー馬の勝利は初(GIに昇格した17年以降)
 - ・1戦1勝馬の勝利は初(17年以降)。また、1戦1勝馬のJRA・GI制覇は通算3回目(グレード制を導入した84年以降)

ロブチェン *Louvén*

牡 黒鹿毛 2023.4.9生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・フォレストレーシング 栗東・杉山晴紀厩舎
馬名意味・モンテネグロの山名

ソングライティングUSA系 F3-g

ワールドプレミア 黒鹿毛 2016	ディーブインバウト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	マンデラGER 栗毛 2000	Acatenango Mandellicht
ソングライティングUSA Songwriting 黒鹿毛 2013	Giant's Causeway 栗毛 1997	Storm Cat Mariah's Storm
		Unbridled's Song
	Embur's Song 鹿毛 2007	Embur Sunshine

5代までのインブリード：Northern Dancer S5×M5

INTERVIEW

加我烈士 厩舎長(ノーザンファーム早来)

2歳時にG Iを勝てるとは思いませんでした

父のワールドプレミアにも、騎乗スタッフだった頃に跨っています。ロブチェンは父とは違う乗り味の馬ですが、調教を進めるうちに芯が入ってきました。この成長力ならば父のように菊花賞で活躍できるのではと思っていましたが、まさか2歳時にG Iを勝てるとは思いませんでした。折り合い面の不安もなく、緩さが解消されてくれば、まだまだ強くなりそうです。

I.Terashima



11月の初陣(京都・芝2000m)は重馬場での逃げ切り。勝ち時計も目立たず、注目度が低かったのも無理はない本馬だが、この日は初戦とは勝手が異なる馬場と戦法にも難なく対応、「キッしる脚も持っていると思っていた」という松山騎手の感触通り、素晴らしい決め手を発揮して新種牡馬の父に大きなタイトルを贈った。G Iに昇格した17年以降、1戦1勝馬の勝利は初めて。晩成のステイヤーといえた父の血筋からも、レースの歴史に新たな一頁を刻んだ2歳中距離王にはまだまだ「伸びしろ」が見込める。

父ワールドプレミア

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央12戦4勝(菊花賞^{G1}、天皇賞(春)^{G1}、若葉S・L2着、有馬記念^{G1}3着、神戸新聞杯^{G3}3着、日経賞^{G3}3着、京都2歳S^{G3}3着)、22年から供用
〔代表産駒〕**ロブチェン**(本馬)

母ソングライティングUSA

中央8戦0勝。15年輸入

(18 牝父ブラックタイド)

ブラックボイス(19 牝父ブラックタイド)中央16戦2勝(山吹賞2着)、障害8戦3勝 優

リリックス(20 牝父キンシャサノキセキAUS)中央5戦0勝、地方13戦2勝タイセイシンガー(21 牝父シュヴァルグラン)中央3戦0勝、地方1戦1勝テオーシュタイン(22 牝父ワールドエース)中央17戦1勝 優

ロブチェン 本馬(23 牝父ワールドプレミア)中央2戦2勝(ホープフルS^{G1})獲得総賞金78,662,000円

(24 流産)

(25 牝父コパノリッキー)

祖母エンバースソング Embur's Song

カナダ産 北米6勝(オンタリオメイトロンS・加^{G3}、ヘンドリーS・加^{G3}、ダブルドッグデアS・米^{G3}、ウインドワードS・米L、シーウエイS・加^{G3}2着、バイソシシティS・加2着、ベッサラビアンS・加^{G3}3着)、加古牝馬チャンピオン

ソングライティングUSA(13 前出)

エンバースジップ Embur's Zip(17 牝父City Zip)北米1勝

曾祖母エンバーサンシャイン Embur Sunshine

カナダ産 北米2勝(ブルースパークラーS・米2着、キャンディエクレアS・米2着)

デフラット Ten Flat(98 牝父Meadowlake)北米5勝(シルバーデビューイS・加L、スインフォードS・加^{G3}2着)

エンバトル Embattle(99 牝父Phone Trick)北米10勝(クイーンストーンS・加2着、ジュベナイルS・加2着)

グロウイングアンバー Glowing Amber(03 牝父Deputy Minister)阿0勝、

アンバーパレス Amber Palace(喜望峰ナースリーS・阿^{G3}2着)の母

ドーンレイド Dawn Raid(05 牝父Vindication)北米2勝、**エグザジャレイタ** Exaggerator(ブリークネスS・米^{G1}、サンタアニタダービー・米^{G1})の母

エンバースソング Embur's Song(07 前出)

新たな一頁を刻んだ1戦1勝馬の勝利

G Iに昇格した2017年以降、原則的には「年間の最終開催日」に組まれてきたホープフルSだが、25年是有馬記念前日の土曜日に実施。有力視されていたラヴェニューが直前に回避し、混戦ムードが深まったなか、未勝利戦アイビースを連勝中のアンドウリルが1番人気の支持を集め、京都2歳Sの覇者シヤスティンピスタ、札幌2歳Sを豪快に差し切ったシヨウナンガルフト、2戦2勝の重賞ウイナーがこれに続く勢力図が描かれた。とはいえ、勝利を飾ったのは7番人気の伏兵ロブチェン。1戦1勝のワールドプレミア産駒が無傷の戴冠を果たした。

先導役を務めたテオーアルアインは2コーナーから向正面にかけてペースを緩め、レースは落ち着いた流れで進行。アンドウリルは掛かり気味に好位の外、ロブチェンの松山弘平騎手は中団の内を進む。一方、ゲートで少し立ち遅れたシヨウナンガルフは後方馬群の外、出足がつかなかったジャスティンピスタも後方2番手につけ、反撃の機会を窺った。

迎えた直線、力尽きた逃げ馬に好位を迫走してきた面々が襲い掛かり、坂の上りでは京都2歳Sの2着馬アスクエンジンバラが先頭へ。これにフォルテアンジェロが追いつくが形勢となったが、残り200m地点の手前まで内から外へ進路を切り替え、加速にかかったロブチェンは抜群の決め手を披露。先に抜け出しをはかった2頭を一気にかわしてゴールに飛び込んだ。

11月の初陣(京都・芝2000m)は重馬場での逃げ切り。勝ち時計も目立たず、注目度が低かったのも無理はない本馬だが、この日は初戦とは勝手が異なる馬場と戦法にも難なく対応、「キッしる脚も持っていると思っていた」という松山騎手の感触通り、素晴らしい決め手を発揮して新種牡馬の父に大きなタイトルを贈った。G Iに昇格した17年以降、1戦1勝馬の勝利は初めて。晩成のステイヤーといえた父の血筋からも、レースの歴史に新たな一頁を刻んだ2歳中距離王にはまだまだ「伸びしろ」が見込める。